

# 令和3年度 南信農業試験場試験研究の推進方向

## 技術開発の方向

- 「第3期長野県食と農業農村振興計画」の実現を目標に、関係機関・団体、企業等との連携を図りながら、南信地域特有に地勢や気候を生かせる農業技術や新品種を開発し、南信地域の農業の発展に貢献します。

## 試験研究のねらい

## 主要課題とその内容

### I 日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発

#### 1 魅力あるオリジナル品種の開発

- 日本なしの高品質品種の育成を進めます。

#### I-1 日本なしの新品種育成 (H30~R4)

- ・ 果実品質 (大玉・高糖度・良食味) が優れ、病害複合抵抗性 (黒星病・黒斑病) を持つ日本なし品種の育成を進めます。

#### 2 環境への負荷を軽減できる技術の開発

- 農薬を減らした果樹の害虫防除技術の開発に取り組みます。

#### I-2 なしの主要害虫の発生生態に基づく効率的防除体系の確立 (H30~R4年)

- ・ ナシヒメシクイに対し長期残効性を有する改良型交信攪乱剤を有効に活用した減農薬防除技術の開発を進めます。

#### 3 多分野と連携した先端的な農業技術の開発

- 「市田柿」加工工程の省力化を可能とするロボット開発に取り組みます。

#### I-3 「市田柿」剥皮工程のための自動判別・高精度位置決めロボット開発 (R3年)

- ・ 大学、企業が開発した原料果実を適正に剥皮機に自動セットできるロボットの実証を行います。

#### 4 温暖化に適応するための技術開発

- 温暖化による日本なし、「市田柿」原料かきへの影響把握を進めます。

#### I-4 地球温暖化が日本なし、「市田柿」栽培に及ぼす影響評価 (H30~R4年)

- ・ 温暖化による日本なし及び「市田柿」原料かきの樹体生育や果実品質に及ぼす影響を調査します。

### II 生産現場の課題を解決するための技術開発

#### 1 安定生産のための品種改良・技術開発

- 日本なし県オリジナル品種の安定生産技術の確立に取り組みます。
- 日本なし、かきの主要病害に対する安定的な防除技術の開発に取り組みます。

#### II-1-1 「サザンスイート」、「南農ナシ6号」の栽培管理技術の確立 (H30~R4年)

- ・ 食味が優れ、主要病害に強い特徴を活かし、高品質な果実を安定して生産できる技術の確立に取り組みます。

#### II-1-2 日本なし、かきの主要病害に対する安定的な防除技術の開発 (H30~R4年)

- ・ 薬剤耐性ナシ黒星病菌に有効な新たな防除体系を明らかにし、耕種的防除法とあわせた総合防除技術を開発します。
- ・ 病害の発生生態と薬剤の効果特性に応じたカキ円星落葉病、炭疽病に対する安定的な防除技術を開発します。

#### 2 低コスト・省力化・軽労化のための技術開発

- 日本なしの省力・軽労栽培技術の開発を進めます。
- 「市田柿」の減肥技術の開発に取り組みます。

#### II-2-1 日本なし栽培の省力化、軽労化が期待できる技術の開発

- ・ 樹体ジョイント仕立ての改良形であるジョイントV字トレリス樹形の有効性を「南水」で検討します (R3~5年)。
- ・ 「南水」の樹体ジョイント仕立て栽培に適した局所施肥技術の開発を進めます (H30~R4年)。

#### II-2-2 「市田柿」原料かきを主体としたかきに対する効率的施肥法の開発 (H30~R4年)

- ・ 「市田柿」の窒素吸収特性に基づいた適正施肥量の把握と減肥技術の開発に取り組みます。